山陽堂だより 56

2014年3月弥生

JANYODO MOTEM

山陽堂書店

03-3401-1309

2014.3.10(月)〜3.19(水)

2月の雑誌ベスト5（店売）

1. 家庭画報3月号
2. POPEYE
3. SPUR
4. フィガロジャポン
5. GINZA

定期購読も含めた雑誌ベスト5

1. Sweet
2. SPUR
3. GINZA
4. 家庭画報
5. エルジャポン

2月の本ベスト5（店売）

1. 絵本「だいじなだいじなはこのはこ」 益田ミリ作 平澤一平絵
2. 絵本「かつらくん」 谷川俊太郎作 松本大洋絵
3. MONKEY vol.2 特集 続のーターズ 柴田元幸 青山南 村上春樹
4. 絵「はやくはやくっていわないで」 益田ミリ作 平澤一平絵
5. みちこさん英語をやりなおす 益田ミリ著

女川だより（おなかわ）—あの日からの「家族の肖像」

日・祝休 月〜金 11時-19時 土 11時-17時
※3/13・14は 18時半閉廊

東日本大震災の震源地にもっとも近い場所、宮城県の牡鹿半島（おしか）の付根に位置する女川町は、震災で甚大な被害にあいました。
津波が町を襲ったあの日から、人々は何を思い、どう暮らしてきたのでしょうか。
半年後の2011年9月、一人の新聞記者が自ら願いでて、この地の赴任してきました。それからのさまざまな出会いのなかに、女川第一中学校の生徒と教師のみなさんとの日々があります。
女川一中では、2011年5月と11月に俳句の授業が行われました。
家族、自宅、地域の仲間、故郷の景色を失った生徒たちが、自分をみつめ、指折り詠んだ五七五。そこにこめた思いを記者は丹念にたどり、2012年に『女川一中生の句 あの日から』として本にまとめました。
あの日から3年。いまも女川町を中心に半島一帯を取材してまわる記者、小野智美さんは"いま"の女川に暮らす人々の思いに耳を傾けつづけています。記者として記事を書くだけでなく、限られた紙面では伝えきれない家族の肖像を「女川だより」（羽鳥書店HPにて連載中）で紹介しています。『女川一中生の句 あの日から』と「女川だより」を中心に、あの日からの女川町を伝える文章や写真を展示します。 —羽鳥書店さんより

ただいまと聞きたい声が聞こえない

逢いたくてでも会えなくて逢いたくて

戻ってこい秋刀魚の群れよ戻ってこい

トークの参加費は本代と含めて2000円。
きらら女川さんのかりんとう（¥145）を日本茶応援団の方たちが急須でいれてくださるお茶といっしょに召しあがっていただきます。

羽鳥書店さんは今年の4月で5周年。同時にフェアも開催中です。

トークイベント

3/14(金) 19時〜
朝日新聞記者の小野智美さん、女川中学の俳句指導の中心を担われた佐藤俊郎教諭お二人によるトークイベントは満員となりました。ありがとうございます。

山陽堂イラストレーターズ・スタジオ展 vol.2

2014.3.24(日) ～ 29(土) 11:00～19:00
最終日 ～17:00

安西水丸さんと講師に迎え
イラストレーターを目指す15名が
『映画』をテーマに展示をいたします。
みなさまのお越しをお待ちしております。

テーマ
映画

雑誌発刊変更のお知らせ
⇩
通常28日頃
女性誌エル・ジャポン
ブォーグは
26日(木)
発売となります。
4/1より
すべての商品
消費税8%
3/31
(発売の日の分を含みます)

益田ミリ作・平澤一平絵 2/12～2/22
『だいじなだいじなぼくのはこ』原画展 ギャラリーノートより

- 箱の中身＝心の中身な気がしました。
  車の人生が1人1人の人生と重なり、困難も幸せも分かち合う事の素晴らしさを改めて感じました。
- 「ぼくにはつんでるにもつがあるよ」
  それがそのひとのパワーなのですね。
- わたしもはこをもっているのかな…
  もっているとしんじたいきもちになって、うれしくなりました。
  ありがとうございました。
- "たった一人でここまで来たよ"と言っていた人でも、
  ここに来る前は誰かがそばにいたことを思い出す。
  もっていた箱は誰かから与えられたものではなく
  自分の内に最初からあったものだったかもしれないけど
  普段自分を思っていてくれる"誰か"を思いだしてしまいました。

みなさまのお越しをお待ちしております。

たったいま開催中 3/10～3/15

女川だより ―『家族の肖像』ギャラリーノートより

- 3月11日の今日 たまたま入ったこの日に この企画展
  心をうたれました。被災地にいない私でも忘れられない
  東日本大震災を現地の方たちがどう受けとめ歩んでいるのか
  改めて深く考えさせられました。ありがとうございました。
- 明日は3月11日です。今日、ここへ来たのはたまたまでした。
  見れてよかった。誰もが誰かの大切な人なのにね。
  いなくならないでほしい。また会いたい。
  そばにいる人を大切にします。
- かけがえのない一日。今日というかえることのできない日をたいせつにしたいと思います。
- やはり忘れつつあったのです。あのとき感じたこと考えたこと心にちかったこと…いろいろ思い出すことができました。シンプルでコンパクトな展示のおかげで女川で暮らす皆さんの気持ち胸にひろがりました。